



山口県の五十九年の 小麦の収益を見る

山口農林水産統計年報によりますと五十九年の小麦は十アール当りの粗収益は七十一、九六七円になります。生産費が六四、七三四円となっていますので、利潤は七、二二三円あります。生産費の中に労働費等が含まれていますので、所得は自家労働費、資本利子、地代等を合計しますと三六、〇四二円となります。ちなみに小麦の十アール当りの労働費は一二・八時間（雇用〇・二時間）で一日当りの家族労働報酬は一二、五一八円となり、山口県の五十九年の水稲の一日当りの家族労働報酬が一、七四六円となっていますので、数字的には米

より小麦の方が労働に對する収益がずっと高くなっています。一方貿易自由化が促進され、小麦等は今後果して生産が持続できるかどうかという懸念があると思います。正直なところ将来の展望に付いては私たちの主食である米ですらどうなるか解らない状況です。

現在私たちが考えなければならぬことは今実施されている制度を上手に利用していくことだと思います。農区なり、集落で、お互いに知恵を出し合い組織的に、それらをこなしていけば、どのような変革に対しても充分対応出来るのではないのでしょうか。

麦作に参加しませんか

地域によっては排水が悪く麦作の難しいところもあります。また少し排水対策に手を加えれば麦作の可能なところもあります。

本年の小麦は現在十五ヘクタール計画しており、各農区に若干の展示ほを設置し、その生産の状況等を見ていただきたいと思えます。農協、町、

普及所と一体となって安心して生産出来る小麦の栽培体系を確立し、収益のあがる生産の仕組みをつくりあげていく考えです。どうか麦作に参加されるようお願いいたします。

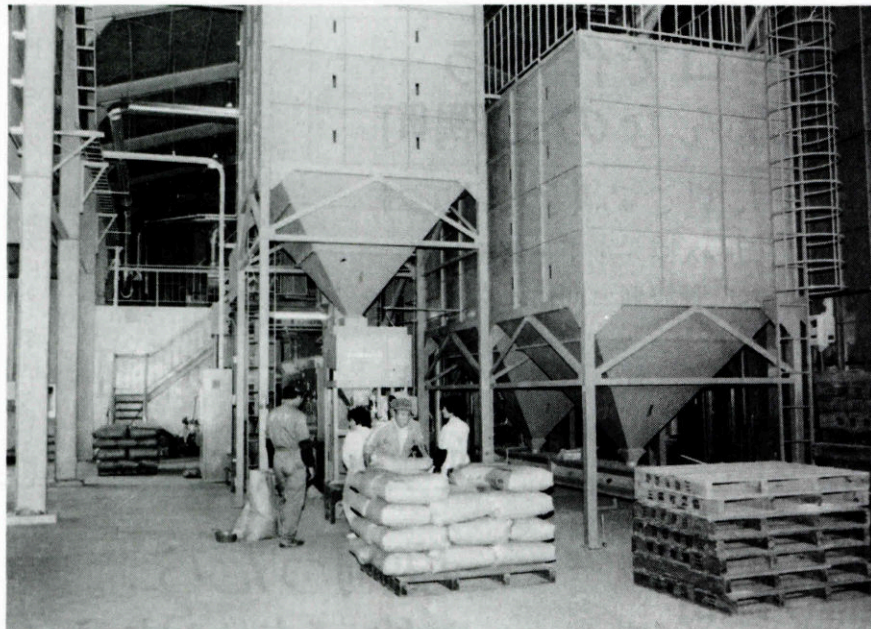
今年の

「こしひかり」は 豊作です



技術水準のあがった 「こしひかり」

「こしひかり」を皮肉って、一名「こけひかり」とも言われています。水稲の中でも一番たおれ易い品種に入ります。このくらい栽培が難しいものです。三隅では農協、普及所、農区水稲推進員等のご指導と栽培農家のご努力で、昨年、今年と大変良い成績を収めることができました。このような短期間に「こしひかり」の技術水準のあがった例は少ないと聞いております。この原因は「こしひかり」の集団栽培にあると思います。二条窪三ヘクタール、小島・東方で五ヘクタール、中村五ヘクタール、兔渡谷三ヘクタールが集団栽培を実施しております。「こしひかり」の一番大切な技術は水の駆引きにあると言われています。したがって集団栽培では、きちんと実施出来ることと総ての技術が普及し易いことが増収につながったと思います。本年度三隅では六十三ヘクタールが生産され、おそらく十アール当り、九俵近い収量が予想されます。農協では来年度は七十ヘクタールの「こしひかり」の生産を計画しております。



▲ 新しく増改築されたライスセンター